

# 株 主 通 信

平成27年度(第97期)

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ  
証券コード: 8036

## Contents

- P 1 あなたのそばの日立ハイテック
- P 3 トップインタビュー  
「2020年に向けたさらなる成長の加速」
- P 7 連結財務ハイライト
- P 8 事業概況
- P 9 会社概要/株式の状況/株主メモ
- P 10 クーガーズ通信
- 裏表紙 ウェブサイトのご紹介

## 医用分析装置

生化学自動分析装置は、病気の診断や生活習慣病、健康状態のチェックのために使われます。日立ハイテクの装置は、日本国内のみならず、全世界で活躍しており、人びとの健康で豊かな暮らしに貢献しています。



生化学自動分析装置

## 細菌検査装置

敗血症などの血流感染症から人びとの命を守るには、迅速な検査と治療が必要です。日立ハイテクの細菌検査装置は、感染症の診断と治療に必要な細菌の遺伝子情報を自動で迅速に検出し、治療に必要な検査情報を提供することで医療の現場を支えています。



多項目同時遺伝子検出システム

## 電子顕微鏡

さまざまな産業分野で研究開発や品質管理などに使用されている電子顕微鏡。従来観察が難しかった水分を含んでいる試料もそのまま観察できる電子顕微鏡が登場するなど、活用の場がさらに広がり、科学技術・産業の発展に貢献しています。



卓上大気圧顕微鏡

## DNAシーケンサ

DNAシーケンサは、DNAの塩基配列を解析する装置です。日立ハイテクはDNAシーケンサのパイオニアとして、ヒトゲノム解析にあたって主要な役割を果たしました。さらに、科学捜査などのDNA型鑑定や遺伝子診断などでも用いられています。



DNAシーケンサ  
Copyright© 2016 Thermo Fisher Scientific Inc. Used under permission.

# あなたのそばの

日立ハイテクグループの取扱製品は、日常の



## 半導体製造装置

スマートフォンやタブレット端末、自動車用電子機器に使われている半導体は、日常生活をはじめ社会インフラ全体を支えています。最先端のプロセス技術を有する日立ハイテクの半導体製造装置は、世界中の半導体生産工場で活用され、社会の発展に貢献しています。



測長SEM

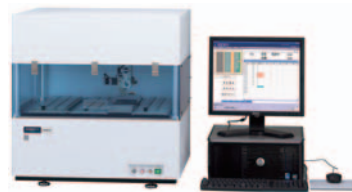


# 日立ハイテック

さまざまな場面で皆様と、社会と関わっています。

## カドミウム検出装置

カドミウム検出装置は、食品の生産・加工・流通現場で用いられ、簡単・迅速にお米のカドミウム濃度の検査が可能な分析装置です。日立ハイテックグループは多様な分析装置の開発で、「食の安心と安全」へ貢献します。



カドミウム検出装置

## 熱分析装置

熱による物質の変化を測定・観察することにより物質の性能や性質を評価することができる熱分析装置は、プラスチックやゴムなどの耐熱性を評価するなど、さまざまな材料の性能評価に利用されており、新素材開発や製造現場での品質管理に役立っています。



示差熱熱重量同時測定装置

## 部品・材料関連

日立ハイテックグループは、自動車関連部材や機能材料など工業材料分野の専門商社としての営業力・調達力と、世界各地に広がるグローバルネットワークを強みとしています。これらの強みを活かしてお客様の最適なバリューチェーンを構築し、コスト削減やプロセス合理化など、さまざまな経営課題の解決に貢献しています。



自動車用圧力センサ

## 計装システム

生産性や品質の向上などを目的に製造現場のオートメーション化が急速に進んでおり、製造装置やセンサ機器の監視・制御を行う計装システムは安定した生産に不可欠となっています。日立ハイテックグループの計装システムは、化学、薬品、食品、エネルギー、水処理、環境などさまざまな分野で活用されています。



総合計装システム



# 2020年に向けた さらなる成長の加速

業績の報告と中期経営戦略について、  
執行役社長の宮崎よりご説明します。

執行役社長  
宮崎 正啓

**Q1.** 平成27年度の業績について  
お聞かせください。

**A1**▶ 平成27年度は増収増益を達成しました。

平成27年度の業績は、電子デバイスシステム  
は主要顧客の投資時期変更等の影響を受け

販売が減少しましたが、科学・医用システムの電子顕微鏡や医用分析装置におけるアジア向け販売が堅調に推移したことから、売上収益は前期比(以下同)2%増の6,290億円となり、EBITは8%増の482億円、親会社株主に帰属する当期利益は16%増の360億円となり、増収増益を達成することができました。

なお、配当金につきましては、株主の皆様に対する適正な利益還元を行うという基本方針のもと、平成27年度の業績を勘案し、前期比20円増配の1株当たり65円といたしました。

**Q2.** 平成28年度の業績見通しについて  
お聞かせください。

**A2**▶ 平成28年度は増収を予想していますが、  
積極的な成長戦略投資の実施や為替影響により  
減益となると予想しています。

平成28年度の業績見通しは、売上収益を前期比5%増の6,600億円、EBITを18%減の397億円、親会社株主に帰属する当期利益を12%減の315億円と見込んでおります。電子デバイスシステムは半導体の先端プロセス開発による投資拡大が期待され、また先端産業部材は自動車関連を中心とした工業材料の販売の伸びにより、増収を予想しております。EBITは増収効果があるものの、為替を前期より円高で想定していることに加え、成長サイクルの形成のために積極的な成長戦略投資を行うことにより、減益となることを予想しております。

なお、配当金につきましては、平成27年度と同様に1株当たり65円を予想しております。

**Q3.** 中期経営戦略を発表されましたが、まずは基本方針をお聞かせください。

**A3** 「さらなるお客様志向への変革」「自律分散型組織への変革」に向けて、“Challenge to Change”（変革への挑戦）を図っていくことです。

当社グループは、平成28年度から平成30年度までの「中期経営戦略」を策定しました。中期経営戦略では基本方針として、(1)個別化されたお客様のニーズにきめ細かく応え高度な専門性でソリューションを提供していく「さらなるお客様志向への変革」、(2)全体最適の視点で現場の社員が自ら考え、判断し、行動する意識改革を推進していく「自律分散型組織への変革」を掲げ、変える勇気・変わる勇気を持って挑戦します。

当社グループは、平成27年度まで、東日本大震災で被災した建屋の整備や不採算事業の構造改革に対してリソースを投入してきました。今後3年間は2020年(平成32年)に向けた成長サイ

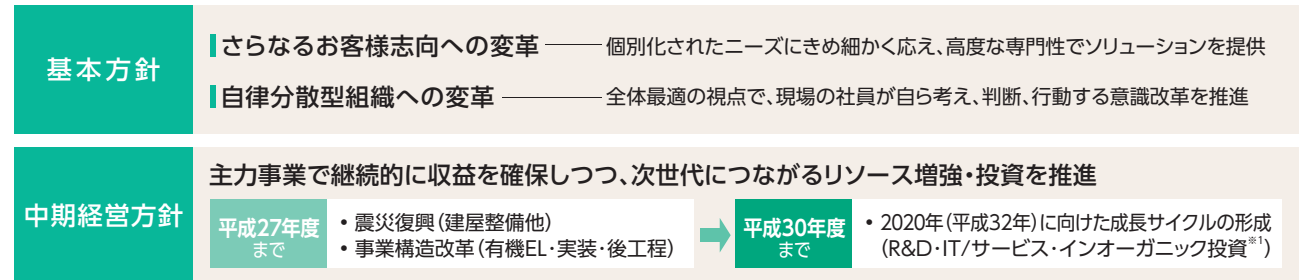
クルを形成する重要な時期と位置づけ、主力事業で継続的に収益を確保しながら次世代につながるリソース増強・投資を推進することを中期経営方針とし、研究開発等の積極的な戦略投資を

行っています。

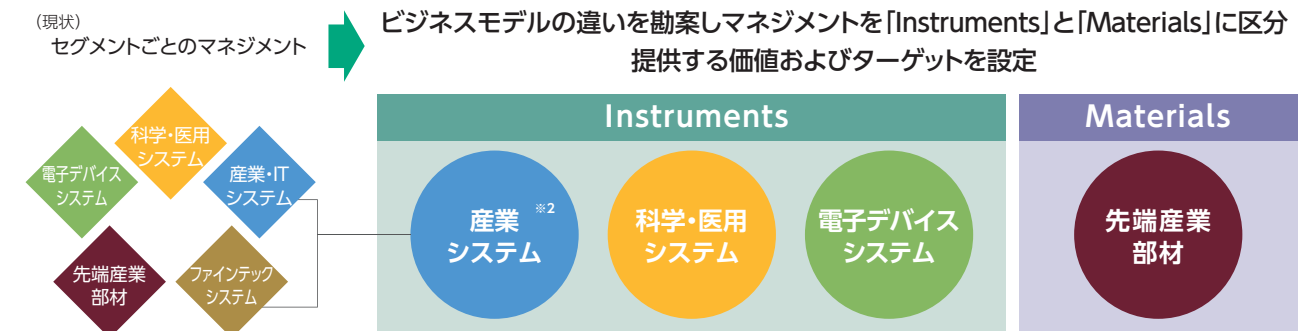
また、中期経営戦略実行にあたっては、マネジメントを「Instruments」と「Materials」に区分して事業を推進していきます。

## 中期経営戦略の内容

### “変える勇気・変わる勇気を持って進む”



### 成長戦略実現に向け、マネジメントを「Instruments」と「Materials」に区分



※1 インオーガニック投資：他社との提携やM&Aなどによる成長を目的とした投資

※2 平成28年度より、「産業・ITシステム」と「ファインテックシステム」を統合し「産業システム」として運営

事業のマネジメントを「Instruments」と  
Q4. 「Materials」に区分されているのはなぜ  
でしょうか。

**A4** ビジネスモデルが異なる各事業について、  
マネジメントを区分しそれぞれに適した目標を  
設定することで、さらなる成長に向けた運営体制  
を構築するためです。

「Instruments」では「設備・装置・機器」を主な  
製品としており、「Materials」では「部品・材料」  
が主な製品となります。マネジメントを分けた一  
番のポイントはビジネスモデルの違いです。今  
後はマネジメントごとに提供する価値および  
ターゲットを設定して事業を推進していきます。

科学・医用システム、電子デバイスシステム、産  
業システムの3セグメントを括った「Instruments」  
では、強いプロダクトと商事品、アプリケーションと  
サービスを組み合わせたソリューションを提供して  
いきます。先端産業部材セグメントの「Materials」  
では、既存事業のさらなる強化を図るとともに、お  
客様のバリューチェーンにおける課題解決を目的  
としたFVCオーガナイザー<sup>※1</sup>として製造業向け商

事サービスを提供していきます。

※1 FVC(Full Value Chain)オーガナイザー：企画・開発から調達、製造、販売、  
サービスまでのバリューチェーン(価値連鎖)を取りまとめて、顧客の全体最適を  
提供する企業のこと

Q5. 中期経営戦略における具体的な目標を  
教えてください。

**A5** 「Instruments」ではEBITマージン率<sup>※2</sup>10%  
以上、「Materials」ではEBIT絶対額50億円以上を  
めざしていきます。

中期経営戦略では、売上収益については  
「Instruments」「Materials」とも事業ごとに市場  
の伸びを上回る成長をめざしていきます。収益性  
については、「Instruments」ではEBITマージン率  
10%以上、「Materials」ではEBIT絶対額で50億円  
以上を目標としています。また、EBITにおける各事  
業の製品の保守サービスや商事サービスなど  
「サービス事業」の割合を50%以上とすることで、  
収益基盤の安定化をめざしていきます。サービス  
事業については、「Instruments」は製品の保守  
サービスに加え、ICT<sup>※3</sup>を活用したソリューション  
サービスの創生・拡大を図っていきます。また、お



お客様が必要とする商材にロジスティクスおよび  
ファイナンス機能を含めて提供するサービス事業  
を主とした「Materials」は、お客様の課題解決に  
向けて、フルバリューチェーン(FVC)事業をさら  
に進化・発展させていきます。

※2 EBITマージン率：EBIT÷売上収益。収益性を示す指標。

※3 ICT(Information and Communication Technology)：情報通信技術

Q6. 研究開発・設備投資・事業投資の増額の  
背景についてお聞かせください。

**A6** 2020年に向けたさらなる成長をめざし、  
積極的に成長戦略投資を実行していきます。

研究開発については、平成28年度から平成  
30年度までの3年間でバイオ・メディカル事業を

中心に800億円規模の投資を計画しています。これは、平成25年度から平成27年度までの3年間で比べて約30%の増額となります。設備投資は、電子デバイスシステムおよび科学・医用シス

テムを中心に製造能力の拡充と生産技術力の強化、デモ設備等の拡張によるお客様とのコラボレーションの深化を目的に400億円規模の投資を実行する予定です。事業投資については、バイ

オ・ヘルスケア、社会・産業インフラを中心に300億円規模の投資を実行していきます。また、手持ち資金を活用したM&Aの実施などさらなる事業投資も推進していきます。

## 中期経営戦略のターゲット

1	KPI※4	目標達成に向けて成長戦略を策定・実行
売上収益	市場の伸びを上回る成長の実現	事業ごとの売上収益CAGR※5 > 市場成長率
収益性 (平成30年度)	Instruments	EBITマージン率 10%以上
	Materials	EBIT絶対額 50億円以上
サービス比率	EBITに占めるサービス事業※の割合:50%以上を維持 <small>※サービス事業:製品保守サービス、ITソリューション、商事サービス等</small>	
2	投資戦略	成長戦略実現に向けて積極的に投資を実行(平成28~30年度累計)
研究開発	投資規模 800億円	バイオ・メディカル事業を中心に増額(平成25~27年度比 約30%増)
設備投資	400億円	・事業を支える製造能力の拡充と生産技術力の強化 ・デモ設備等の拡張によるお客様とのコラボレーションの深化
事業投資	300億円	<div> <div>バイオ・ヘルスケア</div> <div>社会・産業インフラ</div> <div>+</div> <div>手持ち資金活用によるさらなる事業投資</div> </div>
3	株主還元	配当性向30%をめざし、安定配当を維持

※4 KPI(Key Performance Indicator):重要業績評価指標  
 ※5 CAGR(Compound Average Growth Rate):年平均成長率

**Q7.** ステークホルダーや社会との関わりについてお聞かせください。

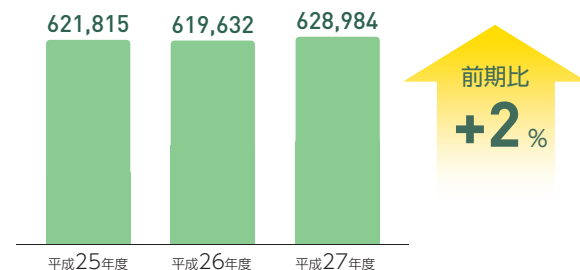
**A7** 日立ハイテクらしい価値の提供を通じて、豊かな社会の実現に貢献します。

当社グループの企業理念として、「あらゆるステークホルダーから信頼される企業をめざし、ハイテク・ソリューションによる価値創造を基本とした事業活動を通じ、社会の進歩発展に貢献する」ことを掲げています。信頼される真のCSR企業として、社会が抱える課題の解決に貢献するとともに、株主様をはじめとするステークホルダーとの建設的な対話を通じて、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループの企業理念をご理解いただき、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

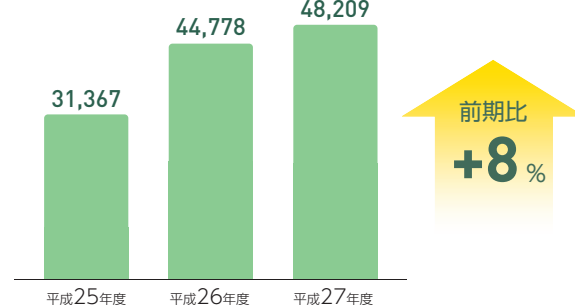
## 売上収益

(百万円)



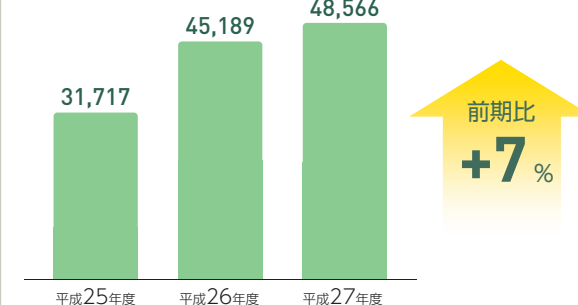
## 受取利息及び支払利息調整後税引前当期利益 (EBIT)

(百万円)



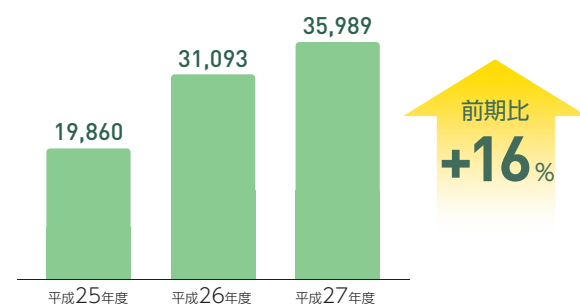
## 税引前当期利益

(百万円)

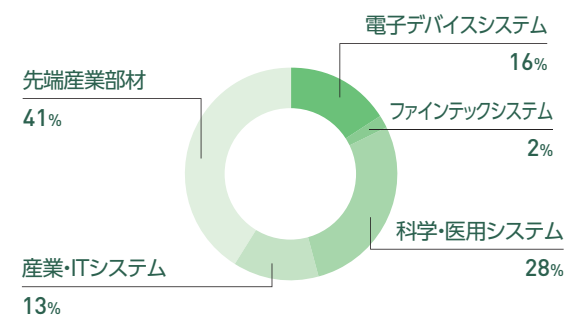


## 親会社株主に帰属する当期利益

(百万円)

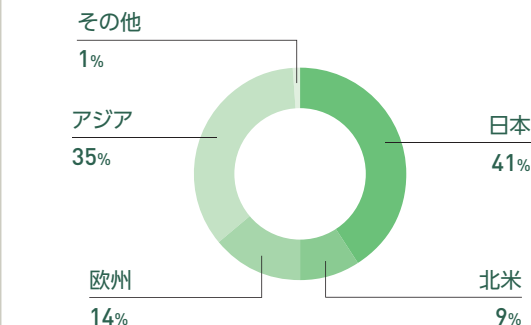


## セグメント別売上収益比率



注: 合計には「その他・調整額」が含まれていません。

## 地域別売上収益比率







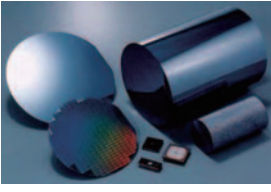
注: 平成27年度より国際財務報告基準 (IFRS) に準拠して連結財務諸表を作成しております。  
これに伴い、平成25年度および平成26年度についてもIFRSに準拠した数値を記載しております。

## 決算のポイント

### 売上収益・EBIT

電子デバイスシステムは主要顧客の投資時期変更等の影響を受け販売が減少しましたが、科学・医用システムの電子顕微鏡や医用分析装置のアジア向け販売が堅調に推移したことから、全体では増収増益となりました。



売上収益／EBIT		決算のポイント	
電子デバイスシステム	 <p>(百万円)</p> <p>■ 売上収益 ■ EBIT</p> <p>105,893 17,362 平成26年度</p> <p>102,711 15,307 平成27年度</p>	<p>売上収益 1,027 億円 前期比 △3%</p> <p>EBIT 153 億円 前期比 △12%</p>	<p>プロセス製造装置では、一部の主要顧客の投資時期変更の影響を受け減少しました。</p> <p>評価装置では、測長SEM<sup>※1</sup>は顧客の投資が回復基調にあったことから増加したものの外観検査装置は主要顧客の投資延伸の影響を受け減少し、全体では微減となりました。</p>
ファインテックシステム	 <p>(百万円)</p> <p>■ 売上収益 ■ EBIT</p> <p>11,354 678 平成26年度</p> <p>15,069 492 平成27年度</p>	<p>売上収益 151 億円 前期比 +33%</p> <p>EBIT 5 億円 前期比 △27%</p>	<p>社会インフラ検査では、鉄道各社の積極的な投資により鉄道関連検測装置が増加しました。</p> <p>産業インフラでは、顧客の好調な設備投資を背景に製造装置が増加しました。</p>
科学・医用システム	 <p>(百万円)</p> <p>■ 売上収益 ■ EBIT</p> <p>164,264 26,090 平成26年度</p> <p>176,997 26,571 平成27年度</p>	<p>売上収益 1,770 億円 前期比 +8%</p> <p>EBIT 266 億円 前期比 +2%</p>	<p>科学システム(電子顕微鏡・科学機器)では、新製品の拡販やアジア地域を中心とした海外向け販売が堅調に推移したため増加しました。</p> <p>バイオ・メディカルでは、先進国での大口案件の取り込みや中国を中心としたアジア市場での需要が堅調に推移したため増加しました。</p>
産業・ITシステム	 <p>(百万円)</p> <p>■ 売上収益 ■ EBIT</p> <p>84,869 163 平成26年度</p> <p>83,480 638 平成27年度</p>	<p>売上収益 835 億円 前期比 △2%</p> <p>EBIT 6 億円 前期比 +292%</p>	<p>産業ソリューションでは、顧客の更新需要による計装システムの販売拡大や太陽光EPC<sup>※2</sup>案件の立ち上げにより増加しました。</p> <p>ICTソリューションでは、車載用ハードディスクドライブが堅調に推移したものの、携帯電話事業の終息により大幅に減少しました。</p>
先端産業部材	 <p>(百万円)</p> <p>■ 売上収益 ■ EBIT</p> <p>258,110 2,209 平成26年度</p> <p>256,822 3,457 平成27年度</p>	<p>売上収益 2,568 億円 前期比 △0.5%</p> <p>EBIT 35 億円 前期比 +57%</p>	<p>自動車・輸送機器関連部材では、メキシコ向けビジネスの立ち上がりに加え、米国と中国を中心に好調に推移したことにより増加しました。</p> <p>工業関連部材および機能化学品その他では、資源価格低迷の影響により減少しました。</p>

※1 SEM(Scanning Electron Microscope) : 走査電子顕微鏡 ※2 EPC(Engineering, Procurement and Construction) : 設計、調達、建設

会社概要 (平成28年6月24日現在)

■ 商 号 株式会社日立ハイテクノロジーズ  
■ 本社所在地 東京都港区西新橋一丁目24番14号  
■ 設立年月日 昭和22年4月12日  
■ 資 本 金 7,938,480,525円  
■ 従 業 員 連結 9,902名  
単独 3,711名

※従業員数は平成28年3月31日現在

■ 役 員 取締役 取締役会長 久 田 眞佐男  
取締役 取 締 役 宮 崎 正 啓  
取 締 役 取 締 役 大 中 村 豊 一 明  
社外取締役 社外取締役 早 川 英 世  
社外取締役 社外取締役 戸 田 博 道  
西 見 有 二  
執行役 代表執行役 宮 崎 正 啓  
執行役社長 代表執行役 池 田 俊 幸  
執行役専務 執行役専務 木 村 勝 高  
執行役専務 執行役専務 宇 野 俊 一  
執行役専務 執行役専務 佐 藤 真 司  
執行役専務 執行役専務 中 島 隆 一  
執行役専務 執行役専務 橋 本 純 一  
執行役専務 執行役専務 本 田 稔 慈  
執行役専務 執行役専務 大 嶋 秀 浩  
執行役専務 執行役専務 岡 田 太 裕  
執行役専務 執行役専務 石 井 昭 司  
執行役専務 執行役専務 今 西 真 久  
執行役専務 執行役専務 桜 井 越 志

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

■ 発行可能株式総数 350,000,000株  
■ 発行済株式総数 137,738,730株  
■ 株 主 数 7,728名

■ 株 式 分 布 状 況

所有者別株式分布状況 (持株数)

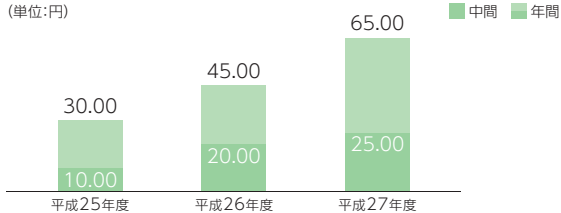


所有者別株式分布状況 (株主数)



■ 1株当たり配当金

(単位:円)



■ 大株主

(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社日立製作所	71,135,619	51.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,902,300	2.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,251,300	2.36
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアント アカウント エスクロウ	2,559,554	1.86
ゴールドマンサックスインターナショナル	1,917,491	1.39
日立ハイテクノロジーズ社員持株会	1,649,619	1.20
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505001	1,436,156	1.04
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジエイビーアールデイ アイエスジー エフイーエイシー	1,365,794	0.99
ジェーピー モルガン チェース バンク 380684	1,212,800	0.88
818517ノムラルクスマルチカレンシジエイ ピストクリド	1,134,600	0.82

(注) 持株比率については、自己株式(208,212株)を控除して算出しております。

株主メモ

■ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
■ 定時株主総会 毎年6月  
■ 上場証券取引所 東京証券取引所 (市場第一部)  
■ 剰余金の配当の  
受領株主確定日 毎年3月末日および9月末日  
■ 株主名簿管理人 東京証券代行株式会社  
■ 同上事務取扱場所 〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地  
(神田錦町三丁目ビルディング6F)  
[郵便物送付先・連絡先] 〒168-8522  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
東京証券代行株式会社 事務センター  
■ お問合せ先 ☎ 0120-49-7009  
■ 株主名簿管理人の  
事務取次所 三井住友信託銀行株式会社  
全国本支店(コンサルティングオフィス・コン  
サルプラザを除く)

■ 住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について  
お取引口座のある証券会社等にお申し出ください。  
ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。  
■ 未支払配当金のお支払について  
株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

■ 「配当金計算書」について  
配当金を銀行等口座振込(株式数比例配分方式を除きます。)または配当金領収証にてお受取りの場合、お支払の際ご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご選択されている株主様におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。



# 昨シーズンも多くのご声援をいただき、 ありがとうございました！

**15-16 Wリーグ レギュラーシーズン結果**  
4勝21敗(11チーム中10位)

※詳細はクーガーズ公式ウェブサイト・Facebookをご覧ください。



**藪内 夏美** ヘッドコーチ

目標にしていた「ベスト8」には届かず、残念ながら10位で昨シーズンを終了しました。シーズン中は、皆様よりたくさんのご声援をいただき、チームを代表して心から感謝いたします。

選手たちは毎試合最善を尽くし、最後まで戦い続け、コーチングスタッフ、トレーナー、マネージャーは細心の配慮で選手を支えてくれました。私たちクーガーズにはまだまだ可能性があり、さらに成長していけるチームですので、今シーズンにご期待ください。



**八木 香澄** キャプテン #7

今シーズンは選手一人ひとりが飛躍していけるよう、これまで以上にトレーニングを積み重ねてWリーグにチャレンジします。

選手全員がコートで活躍する姿をお見せできるよう準備しますので、ご声援をよろしくお願いします。

女子バスケットボール部  
クーガーズ



## Topics

福島県川俣町でバスケットボールクリニックを行いました。



7月

茨城福祉工場を訪問し、交流会と懇親会を行いました。



8月

昨シーズン(平成27年度)の  
クーガーズピックアップを  
お伝えします！



 日立ハイテク クーガーズ公式ウェブサイト

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/>



 クーガーズ Facebook

クーガーズではウェブサイトに加えてFacebookでも情報を発信しています。試合の様子を収めた動画や応援メッセージなどもご覧いただけます。是非ご覧ください。



<https://www.facebook.com/HitachiHighTech.Cougars/>



# ハイテクてくてく

日立ハイテクの技術や現場に迫るシリーズ企画。  
最新号では半導体製造装置の製造現場をご紹介します。



ハイテクてくてく

検索

URL <http://www.hitachi-hightech.com/jp/channel/tech-tech/>

## 1 半導体の説明



## 2 製造現場見学

中に入るときは、  
この防護服を着ます。



## 3 設計者インタビュー



### その他ピックアップコンテンツ

日立ハイテクの事業活動や企業活動をより  
ご理解いただくための、さまざまなコンテ  
ンツを掲載しています。ぜひご覧ください。



トップページ下のバナーをクリック！

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号

Tel : (03) 3504-7111

URL : <http://www.hitachi-hightech.com/jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニ  
バーサルデザインフォントを採用  
しています。